

少林寺拳法大学生拳士訪中団

8月28日～9月3日の1週間、中国側の招きで、少林寺拳法大学生拳士訪中団の副団長として訪中してきました。全国から集った大学生59名(内、東大からも6名参加)を宗由貴団長以下12名の引率で、北京→鄭州→登封→上海と廻ってくる日中交流の旅です。

今年は特に日中国交正常化45周年の節目の年として、北京大学で日中大学生千人交流大会なる公式行事が催され、中国側から劉延東副総理出席の下、日中それぞれ5百人の大学生が交流し、友好宣言がなされました。そのオープニングに少林寺拳法が演武披露する栄に浴し、東大の拳士6名も団体演武で出演し、会場で盛んな喝采を博しました(下図写真)。この様子は NHK NEWS WEB でも放映されています。又、少林寺拳法の代表として、学連委員長と東大4年生の正村武蔵君が、要人との記念撮影やテレビ局のインタビューに招かれ、活躍してくれました。

それと前後して北京大学の国際関係学院と交流したり、学内ベンチャーを見学したりしましたが、中国人学生のエネルギー溢れる起業精神には目を見張るものがあります。北京では万里の長城を観光したほか、IT企業のLENOVO社を視察しましたが、最先端技術が随所に見られ、その自信とパワーを目の当たりにし、中国侮り難しとの感を新たにしました。

北京から高鉄(新幹線)で鄭州に移動し、鄭州大学で演武交流、文化交流、そして宗道臣文庫見学をこなして、登封へ向かいました。



嵩山少林寺ではひとつ嬉しい出来事に出会いました。いつものように朝練を観に行ったところ、全員食堂に朝餉のお招きを受けました。釋永信方丈の先導の下、修行の一環として僧侶が食するその後ろで精進料理を頂戴したわけです。武僧も食べるだけあってか、なかなかボリュームがありました。普通では立ち入れない場所に、これまでの訪中では一度もなかった得難い経験をでき、親近感を持っていたことに有難い想いでした。

そのあとは定例の宗道臣開祖帰山記念碑、鼓楼のほか、白衣殿(羅漢練拳壁画)、千仏殿(武僧脚坑など)と特別拝観させていただきました。また前後して禅宗少林・音楽大典(ミュージカル)や嵩山少林寺武僧団培訓基地(トレーニングセンター)の表演も見学し、盛りだくさんの嵩山少林寺でした。

最後の訪問地上海へ移動し、外灘や豫園の観光、ショッピングなどを終え、旅の終わりを迎えました。この間、毎日のように招宴があり、実に中身の濃い、変化に富んだ1週間でした。かなりハードなスケジュールに体調を崩した人もいましたが、しかし学生諸君はそれ以上の多くのものを得て帰国してくれたように思います。

今の日中交流の一番の課題は、次の世代にどうつないでいくかであると思っています。結団式の時、私は団員に3つのシンプルな目標を提示しました。

- ①ありのままの中国を素直によく見てくること
- ②中国の若者たちと積極的に交流してくること
- ③帰国後、自分の印象や考えを周囲に良く伝えること

今度の訪中を通して学生たちは自分なりの中国観(の第一歩)を身につけたと思いますし、それが今後の中国との関わりにおいて、いささかなりとも役立つものに育っていくことを期待しています。

東京大学拳生会(少林寺拳法部 OB・OG 会)顧問 米田 敬智 (68 年経)